

## 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名： 藤田医科大学病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。( 2023 年 5 月 1 日現在)

## 1. 病院の機能及び医師等の配置

項 目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数	うち指導医数
内科	13	7	4
小児科	6	1	1
皮膚科	4	3	1
眼科	0	0	0
耳鼻いんこう科	1	1	1

## 2. 学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取り組み

	実 績 (令和4年度)			今 後 の 予 定 (令和5年度)			
	診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容	
情報提供	講演会等	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「喘息児のおよこ教室」Web 教室 8 名	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「およこ喘息教室」現地開催 15 名
		小児科	一般市民	名古屋市ぜんそく児のための水泳教室での講演 15 名	小児科	一般市民	名古屋市と協力し「喘息教室」現地開催 15 名
		皮膚科	市民	アトピー性皮膚炎の治療法について	皮膚科	医師	アトピー性皮膚炎の治療法について
		皮膚科	医師	アトピー性皮膚炎の治療法について	内科,耳鼻科,小児科,皮膚科,眼科など	医師、看護師、薬剤師、学生	2023 年 4 月 12 日 EGPA Management Seminar in Aichi というセミナーで内科、耳鼻科、皮膚科などに関わる勉強会ハイブリッドで行った。49 名参加
		内科,耳鼻科	医師、看護師、薬剤師、学生	2022 年 7 月 6 日 The Allergy conference で喘息、副鼻腔炎に関する勉強会をハイブリッドで開催 27 名参加	内科,耳鼻科,小児科,皮膚科,眼科など	医師、看護師、薬剤師、学生	アレルギー、免疫、その他医学の複数の科に関連する疾患・病態に関し定期的な勉強会を開催したいと検討中である
		内科,皮膚科	医師、看護師、薬剤師、学生	2022 年 11 月 9 日 IP Next Generation Seminar で間質性肺炎の勉強会を行った。11 名参加			
		内科	医師、看護師、薬剤師	2023 年 3 月 16 日 第 70 回東海喘息研究会を web で開催 32 名参加			
		耳鼻科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症研究会 (1 回/年、30 名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供	耳鼻科	医師、薬剤師、気象予報士など	東海花粉症研究会 (1 回/年、30 名程度)、スギ・ヒノキ科花粉飛散情報の提供
		耳鼻科	近隣開業医	病診連携の会 (2 回/年、30 名程度)、抗抗体製剤についての説明	耳鼻科	近隣開業医	病診連携の会 (2 回/年、30 名程度)、抗抗体製剤についての説明
		耳鼻科	アレルギー研究会	好酸球性副鼻腔炎の抗抗体製剤について (1 回/年)	耳鼻科	アレルギー研究会	好酸球性副鼻腔炎の抗抗体製剤について (1 回/年)
他	一般住民	ホームページ上で 1) 重症喘息に対する気管支サーモプラスティの研究 2) 気管支喘息症例におけるメサコリン気道過敏性試験の検討などについて当施設でのアレルギー研究に関する情報提供を行っ					

			ている（倫理委員会承認のもの）				
		耳鼻科	アレルギー研究会	好酸球性副鼻腔炎の抗抗体製剤について（1回/年）			
人材育成	研修会等	小児科	学校教員	エピペン講習会（年14回 430名）	小児科	学校教員	エピペン講習会（年12回 300名）
		小児科	学校教員	アレルギー対応指導者講習会（4回 40名）	皮膚科	医師	アトピー性皮膚炎ガイドラインの概要
		皮膚科	医師	アトピー性皮膚炎ガイドラインの概要	内科	学生	アレルギーに興味のある医師を対象に月に1回程度で勉強会を行っており継続していく。
		内科	学生	アレルギーに興味のある学生を対象に月に1回程度で勉強会を行っている	内科	看護師、薬剤師	呼吸器吸入薬勉強会を検討している
	内科	医師（院内、院外）	数カ月に一度、間質性肺炎の病理検討会を行っている	内科	医師	今後も間質性肺炎の病理検討会を定期的に開催予定である	
他							
助言指導	小児科	一般市民	名古屋市緑保健センターでのアレルギー相談（年4回）	小児科	一般市民	名古屋市緑保健センターでのアレルギー相談（年6回）	
	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員	内科	名古屋市	名古屋市公害認定審査会の委員継続	
	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員	内科	愛知県	愛知県公害認定審査会の委員継続	
	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	耳鼻科	気象予報士	日本気象協会へのスギ・ヒノキ科花粉飛散数の提供、花粉飛散数予測についての助言	

### 3. アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実績（令和4年度）	今後の予定（令和5年度）
診療	アトピー性皮膚炎に対するスキンケア目的の入院加療と生物学的製剤の導入など積極的に行ってきた。食物アレルギーの食べられる範囲での積極的な摂取を進めた。	重症な食物アレルギー児に対して、患者や家族のQOLを改善させるための食事指導を積極的に行い、早期の寛解に導くための診療を進めていく。
	アレルギー性結膜炎、アトピー性網膜剥離の診療を行い、必要に応じてカンファレンスを行った。（眼科）	アレルギー性結膜炎、アトピー性網膜剥離の診療の継続（眼科）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気管支喘息の重篤発作の症例においても救急外来を經由し集中治療室にて入院加療を行い、重篤な場合でも迅速に対応している。</li> <li>・重症喘息患者症で気管支サーモプラスティや生物学的注射製剤を使用する場合はカンファレンスを行い適切な治療法を検討している</li> <li>・間質性肺炎（びまん性肺疾患）では可能な限り、病態についてカンファレンスを行い、今後の方針、治療法などに関し検討している</li> <li>・食物運動誘発アナフィラキシーに関して皮膚科、小児科と相談しながら診療している</li> <li>・気管支喘息は耳鼻科的合併症や皮膚科合併症が多いため、耳鼻科、皮膚科と相談しながら診療している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も救急部と連携し診療にあたっていく。</li> <li>・今後も継続予定である</li> <li>・間質性肺炎（びまん性肺疾患）においてデータを蓄積し解析を行っていく</li> <li>・今後も他科との関連性が考えられる場合はより積極的に相談し治療をおこなっていく</li> </ul>
	アレルギー外来にてアレルギー免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール（毎週土曜日）	アレルギー外来にてアレルギー免疫療法や重症アレルギー性鼻炎患者のコントロール（毎週土曜日）

	EXiLE 法での食物アレルギー診断における有用性について、ソバ、クルミの検討を報告した。	重症食物アレルギー患者に対し、微量のアレルゲン粉末を用いた治療や、鶏卵の舌下免疫療法などの新規治療を行い、治療に導く研究を行う。
	PACI ON study (他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター)	PACI ON study (他施設共同研究、主研究施設：成育医療センター)
研究	<p>間質性肺炎（びまん性肺疾患）の臨床背景、画像、病理学的検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重症喘息で施行される気管支サーモプラスティにおける治療前後の呼吸機能の変化および喘息関連メディエーターの変動の検討を行っている</li> <li>・ANCA 関連血管炎に関する肺線維症に関する研究を行っている。</li> </ul> <p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院では気管支サーモプラスティを施行しており、「Safety and efficacy of bronchial thermoplasty in refractory asthma with severe obstructive respiratory dysfunction」というタイトルで Therapeutic Advances in Respiratory Disease に投稿中。(IF：5.1)</li> <li>・NSAIDs 過敏喘息（アスピリン喘息）における脂質メディエーターの変化の検討</li> </ul>	
	<p>スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、スギ花粉症におけるオマリズマブ（商品名：ゾレア R）の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－</p>	<p>スギ・ヒノキ科花粉症における咽喉頭症状、スギ花粉症におけるオマリズマブ（商品名：ゾレア R）の効果の調査－鼻症状と咽喉頭症状を中心に－</p> <p>スギ・ヒノキ科花粉飛散予測について AI（人工知能）を用いて予測</p>

#### 4. アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

引き続き地域の病院や他の拠点病院と連携して診断、治療を行っていく。

- ・当院ではすべての科で軽症から集中治療室管理が必要な症例を 24 時間体制で受け入れており、今後も継続することで県民の生活の質の向上を図っていく
- ・当院では内科系、外科系、放射線科、病理診断科、基礎医学系との定期的なカンファレンスを行っており、診療科を横断してアレルギー・免疫に関する知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく
- ・地域の病院や他の拠点病院と連携しつつ、県内全域の医師や医療従事者に対する人材育成を引き続き行っていく
- ・当院では基礎医学系との共同研究も充実しており引き続き継続し、3次元構造の気管支上皮を作成しアレルギー・免疫の病態を探索していく
- ・当院では気管支喘息やアレルギー性鼻炎などの典型的なアレルギー疾患から、難治性疾患である間質性肺炎も得意としており診療科を横断して最新の知見を病院全体で深化させ、積極的な情報提供を行い県民の生活の質の向上を図っていく。